社会的表象作用による概念物象化過程に関する文書的素材を対象とした分析技法の理論的整備並びに実証的適用

― 阪神大震災時の記録資料を中心とした社会意識研究の試み ―

八ッ塚一郎
社会学部助手

1995年の阪神・淡路大震災において興隆をみた災害救援ボランティア活動は、その後の日本社会に対して深甚な影響を与えた。政策担当者が、災害救援のみならず、福祉、国際交流、人権擁護、政策提言等々の広範な領域にわたって、市民の力としてのボランティアの活用とその活性化を謳うようになったのは、もとより80年代以降のＮＧＯの影響力拡大という動向もあったものの、直接的には阪神大震災を契機としてのことである。

筆者は、阪神大震災の発災以来、直接被災地に身を置きボランティア活動に参加することを通じて、この大きな変動過程を調査してきた。この調査活動を通じて、筆者は、災害救援活動に従事したボランティア団体が直接残した、記録、資料名鑑類を収集してきた。これら集積した資料とあわせ、特に今回は、文書的な素材を対象に、社会心理学的な分析を試みた。すなわち、筆者が年来理論的研究に従事している、社会心理学における社会的構成主義の動向、具体的には社会的表象の理論に依拠して、災害救援ボランティアという社会現象を、日本社会の変容過程のなかにおける、新しい社会的現実の構成過程として把握することを試みた。この試みは、同時に、社会的構成主義の考え方に基づいた具体的研究に関する、新しい内容分析技法の確立という側面をも含んだものである。

第一に、筆者は、神戸市長田区のボランティア団体「震災・活動記録室」（所在地・団体名は調査実施当時）の協力を得て収集した、各種ボランティア団体の名簿、連絡先一覧等のリスト類をもとにして、阪神大震災において活動したボランティア団体の動向の全体像を把握することを試みた。その結果、広く口にされた「ボランティア元年」等の言葉が喚起するイメージとは異なり、阪神大震災は、ボランティア興隆の「出発点」ではなく、それまでの蓄積を背景とした「成果」とでも言うべきものであることが明らかになった。

調査の結果、阪神大震災の発災後に誕生したボランティア団体は、厳密には震災時に活動した全団体中の３割弱を占めるに過ぎず、大多数の団体は、阪神大震災の以前から活動を蓄積していた。もとよりこれらの活動は直接災害救援を志向したものではなかったものの、大震災という緊急時においてこれらの蓄積が予想外の成果をもたらした。このことは、阪神大震災を契

機としたボランティア現象が、ボランティアに関する定義・意味づけの変容過程、すなわち、新しい社会的現実の構成過程であることを示唆する。

第二に、筆者は、上記の認識を踏まえて、阪神大震災以前から発災後に至るまでの、新聞記事におけるボランティアに関する記述の変容を調査した。具体的には、新聞記事データベースを活用し、震災以前と以後とで、ボランティアの語が含まれる記事数や、ボランティアに関する表現の仕方が、どのように変容したかを分析した。

まず、数量的分析の結果、阪神大震災を契機として、新聞記事数が爆発的に増大したことが示された。これは、ボランティアという社会的な現実に対して、膨大な数の再定義がなされ、その意味づけが大きく、また決定的に変容したことを示唆する。

次に、新聞記事に対する内容分析の結果、ボランティアに関する以下のような質的変化が見出された。すなわち、震災以前には、災害救援ボランティアは、①海外の疎遠な災害において②一部の志ある人々が実施するものであり、③その人の技能よりも素性に関心が集中していた。それに対して、阪神大震災時においては、災害救援ボランティアは、①多くの具体的な作業内容と結びつけられ②日本社会の希望として無条件に賞賛され③なおかつその専門的技能に関心が寄せられた。つまり、一部の善意の人が行う活動だったボランティアが、阪神大震災を契機に、何か技能を持つ者なら誰もが参加し得る身近な活動へと、変化したことが明らかとなった。その後の日本社会における、ボランティアへの広範な関心の高まりは、ボランティアという社会的現実の、このような質的変化があって始めて生じ得たものであると考えられる。

以上のような調査分析結果と論考は、関連する資料とその分析、社会的表象理論に準拠したさらなる考察をも加えて、下記の論文にまとめられた。

Yatsuzuka, Ichiro 1999 'The activity of disaster relief volunteers from the viewpoint of social representations: Social construction of Borantia (volunteer) as a new social reality after the 1995 Great Hanshin Earthquake in Japan.'
In T.Sugiman, M.Karasawa, J.Liu and C.Ward (Eds.). 1999, "Progress in Asian Social Psychology, Volume 2". Seoul: Kyoyook Kwahaksa. p.275-290